



大崎町協力隊通信 vol. 39

地域おこし協力隊の伊藤です。今回はいつもと趣向を変えて、「竹炭にはこんな使い方もあるんだ！」というお話をしたいと思います。

子どもたちの手と自然の知恵で大改善！電動ショベルと「大地の再生」で水はけ改善作戦

持留の「もちっこりのうち」では、雨の日にあちこちに水たまりができ、排水の悪さが課題でした。この問題を解決するため、大崎町SDGs推進協議会さんのコーディネートのもとでお借りしたコマツ電動マイクロショベルと、自然の循環を活かす「大地の再生」という知恵を掛け合わせ、地域の力を結集した環境改善作戦が実施されました。

「大地の再生」に挑戦：大崎町の竹炭と身近な枝葉が大活躍

この度は「大地の再生」の手法による環境改善に取り組む鹿屋市の栗脇さんを講師にお迎えしました。この環境改善の有効な資材となったのが、大崎町内で焼かれた地元産の「竹炭」です。栗脇さんの指導のもと、家の建物に沿って掘った溝に竹炭を投入。その上から、敷地内に散らばっていた木の枝や落ち葉など、普段は「ごみ」として扱われがちな身近な資源をしがらませていきました。

また、重機が入らない水たまりエリアには、手作業で「点穴（てんあな）」と呼ばれる小さな穴をみんなでたくさん掘り、そこにも竹炭を撒き、枝や葉っぱをふんわりと広げて覆いました。竹炭や枝葉は地面がカチカチに締め固められてしまうのを防ぎ通気通水を保ちます。微生物や菌糸の住処にもなり豊かな土へと育みます。そうして通気性や雨水の浸透を促す仕組みです。

この溝掘りで大活躍したのが、静かで排気ガスが出ないコマツ電動マイクロショベルです。今回は安全に十分配慮したうえで、大人に混じって子どもたちも操作を体験させてもらいました。



雨の日に実証！水はけ効果はいかに！？

作業してから数日後、雨が降りました。以前なら水が溜まっていたはずの場所ですが、驚くことに水はけが改善されていました！水は地中へとスーッと吸い込まれていったのでしょうか。

今回は大崎町SDGs推進協議会さんにコマツ電動マイクロショベルを融通していただけたことで実現しました。普段はごみとなる枝葉が役立つ驚きや『家でも環境改善をしたい』という声、そしてショベルの頼もしいパワーを実感しながら、重機を囲んで井戸端会議のような温かいコミュニティが生まれていたのが印象的でした。そして宮園集落や野方分館で焼いている竹炭。これまで私は、竹炭といえば「田畑に投入して使うもの」と考えていましたが、造園や建築、そして環境改善の分野での竹炭の可能性を実感することができました。

皆さまからのご提案やご意見をお待ちしています！

【お問い合わせ】 農林振興課 林務水産係（内線506） 担当：鶴野、米永 ☎476-1111（平日8:30～17:15まで）